

まえがき..... i

第一章 無常とは何か

一、 正法眼蔵の時間論..... 1

はじめに 1

(一) 三界は、初・中・後にあらず 2

(二) 無常仏性 4

(三) 有時の思想 8

(四) 因果と時 12

(五) 全機現としての生死 16

おわりに 19

二、 正法眼蔵の身心論..... 20

はじめに 20

(一) 身心とは何か 21

(二) 身心脱落について 29

(三) 身心の諸相 33

(四) 身心のはたらき 36

おわりに 38

三、 正法眼蔵の「自然」……………	41
はじめに	41
(一) 正法眼蔵における「自」	42
(二) 「おのづから」と「みづから」	45
(三) 「自然」の両義性	48
(四) 自然とは何か	56
おわりに	61
第二章 無常をいかに表現するか	
一、 正法眼蔵の言語表現論……………	65
はじめに	65
(一) 行とことば	66
(二) いかに表現するか	71
(三) ことばと世界	76
おわりに	79
二、 正法眼蔵における「授記」の転位……………	81
はじめに	81
(一) 授記―読みの可能性―	82

(一) 授記と受記	91
(二) 「授記」の位置づけ	93
おわりに	97
三、正法眼蔵の「自己」をめぐって	101
はじめに	101
(一) 自我と自己	102
(二) 自己と他者	108
(三) 自己と縁起	111
(四) 自己と実相	114
おわりに	120
第三章 無常とニヒリズム	124
一、武田泰淳論——初期作品における無常	124
はじめに	124
(一) 初期作品の基底としての仏教思想	125
(二) 『審判』における「無常」	127
(三) 『嘘のすえ』における「無常」	134
おわりに	139

あとがき	161
初出一覧	160
二、 武田泰淳 『富士』 論——ニヒリズムをめぐる——	141
はじめに	141
(一) 倫理、非倫理を超えるということ	142
(二) ニヒリズムの諸相	147
(三) 仏教とニヒリズム	150
(四) 『富士』の生起する「いま」	153
おわりに	156